

## 災害ボランティア活動報告 (No. 5)

**年月日** : 平成23年8月28日(日)  
**活動場所** : 福島県金山町  
**活動内容** : 浸水家屋周辺の側溝の土砂撤去  
**活動拠点** : 金山町災害ボランティアセンター  
**参加者** : No.6. 長内正宏、No.10 時岡真治、No.19  
 岡部博一、No.8 辻珠希(車)



### 活動報告

8月28日(日) 午前

今回の現場は、一月前に発生した新潟・福島豪雨により、水害が発生した福島県金山町。午前3時、葛飾を出発。7時半につきボラセンで待機。金山町のボラセンは自治体や社協の対応が充実。ボランティア保険も自治体の負担で加入できる。手作りお弁当をボラセンで売っているのはじめて。活動をしていると、ボラセンが軽トラで冷たい飲み物を届けてくれる。行政機能が壊滅し、被災規模が大きい東日本大震災との違いが出る。

今日の活動は午前中のみ。手上げ方式で、側溝の泥出しに参加。炎天下で汗が流れる。民家2軒分の側溝の掃除は実働1時間くらいで終了。被災者の方がスイカを差し入れてくれ、長い時間、お話をした。

ボラセンに戻り、無料の温泉に入る。午後からはボラセンの閉所式で地元の方々がお礼にオムスビ、豚汁、杵つきのおんころ餅、納豆餅をふるまってくれとお誘いを受けたが、いわきでの打合せがあり出発。



8月28日(日) 午後

いわき市で、グリグリ独自の活動ができないか、阪神淡路大震災や中越でボランティア活動を実施して、今は、いわきの復興にあたっている加原さんと打合せ。

以下、加原さんの想い。

ボランティアは、自己満足の世界ではあるが、自分の経験からは使い捨ての印象を持っている。せっかく活動をしたならば、地域に足跡を残してもらいたい。ここの復興は俺達が参加したんだといつまでも記憶に残してもらいたい。地元の人にまじり、東京のNPOとしてまちづくりにも参加してもらいたい。役所を通すと、この活動はボランティアの活動としてふさわしくないとか規制も多い。直接NPOと連携すれば自由度も高くなる。イベントへの参加などもしてもらえれば、東京のNPOも関心を持つてると、地元も元気が出る。

当面の活動としては、①被災者の方の家屋の復旧がはじまるが、高齢者は家財の片付けが大変、それを手伝ってほしい。②被災者の方の生活再建のためにいわきのシャッター街の空き店舗を再生しようと取り組んでいる。空き店舗の中には、がらくたが多くありそれを人の手で出さなければいけない。それを手伝ってほしい。

JCの卒業生くらいの若手でいわきを元気にしたいと思っている。そのためには、さまざまなネットワークが必要。ボランティアだけでなく、いわきのファンになっていただくつもりで対応したいと思っている。

以下は、渉外結果

- ① ガソリン代、高速代の実費は、加原氏側が負担
- ② 宿泊については、雨露をしのぐことしかできないが、事務所(エアコン、トイレ付)を使って良い
- ③ ボランティアは、安全のためにも2名以上で参加して欲しい。大人数は仕事をつくるのが大変なので適度な人数が良い
- ④ 女性が一人混じると作業が楽になる。被災者の荷物の片づけは、再び使うので女性の感性があった方がいい
- ⑤ 何時だとか何人希望者がいる等、メールでやりとりをさせて欲しい
- ⑥ 3月11日以降、仕事を再開して休めたのは、8月14日だけ。土日平日を問わず仕事はしているので、NPOの都合に合わせて仕事を考える